

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	三浦 喜成	生徒指導主事	森原 元貴
取組事例名	『新入生オリエンテーション（スタートアップウィーク）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
高校生活に慣れる。 適切な人間関係作り	生活習慣の確立（時間を守る） 規範意識の醸成（学校・授業のルールを守る） 共感的人間関係の育成（集団作り） リーダーの育成



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
4月10日（水）～17日（水） ○教職員講話（校長、各主任、担任） ○部・同好会活動体験 ○大縄跳び大会 ○コグトレ ○Chromebookの活用 ○校歌練習、披露 ○集団行動	生徒にめあてをもたせるために ○事前に生徒個人で高校生活の具体的な目標を設定したうえで、スタートアップウィークに取り組ませた。 ○各オリエンテーションで実施する意図及びねらいの説明を丁寧に行った。
 	生徒の意欲を高めるために ○グループやクラス全体でコミュニケーションを取りながら行うコグトレ、集団行動、校歌練習や大縄跳び大会を実施した。 ○大縄跳びや集団行動については、クラスでチームを作り、リーダーを決め、チーム対抗の対戦、評価する形式にした。
◆学年全体 各クラスに分かれて様々なオリエンテーションを行うのではなく、学年全体として行うことで説明や解釈の食い違い等を防止することができる。	生徒の頑張りを認め、価値付けるために ○大縄跳びや集団行動については、優秀チームには表彰（賞状）を行う。また、教職員だけで評価ではなく、生徒同士の評価もさせた。 ○各担任、代表生徒が振り返りを行い、全体に発表させた。
◆人間関係作り 本校の実態として、毎年、人間関係がうまく築けない生徒が出る。特に、1年生の間は顕著である。これらの問題が、暴力行為やいじめに発展する場合もある。そのため、早い段階で人間関係作りができるような活動を入れた。	



3 成果と課題

事後のアンケートでは半数以上が「クラスメイトと協力してオリエンテーションに取り組めた」「クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができた」と回答しており、この取り組みの意図及びねらいである高校生活に慣れる、適切な人間関係作りに関しては一定の成果をあげられている。 しかし、クラスの人数や状況によって、規範意識の醸成、リーダーの育成が不十分だったことが課題である。
